

なかの 中野 敏勝 議員

高齢者施策について

日本の将来を考える時、人口の3割から4割が高齢者であることが前提になっている。厚生労働省の調査によると70代後半で71%、80歳前半でも57%が介護、医療を利用していない。健康な高齢者が多いことが分かる。日本の高齢者は健康だけでなく、世界的に見ても勤労意欲が高く、引き続き社会に参加する意識を持っている。このようなことから若者や中年層標準を、高齢者標準に構造変化させる行政の対応が必要と考え、次のことを伺う。

- ①65歳以上の健康診断の受診率は。
- ②過去3年間の介護医療保険を利用していない高齢者の実態は。
- ③介護施設への待機者状況と居宅介護の現況について。
- ④高齢者の運転免許の返納実態について。

また、介護度別の利用割合は、要介護1、要介護2の利用者が複数のサービスを組み合わせ利用している状況である。

④自主返納制度は平成10年から導入され、幕別町内での実績は確認できないが、帯広警察署管内での高齢者等の運転免許証返納実績は、平成19年度は20人、平成20年度は19人、平成21年度は59人である。平成21年度は、道路交通法が改正され、75歳以上の高齢運転者に対して、更新時の講習予備検査、いわゆる認知機能検査が導入されたこととが、返納実績増の呼び水になったものと分析される。



町長 ①平成21年度の受診状況は、対象者3063人に対し表①のとおり受診率である。

これは町が実施しているすべての健診の平均受診率と比べると高い率となっているが、国が推奨するがん対策基本法の中での受診率には届かない状況にある。今後、健康診断に対する意識を高める啓蒙活動の徹底が必要と考えている。

②介護保険総体の人数は、第1号被保険者数で、この内サービスの未利用者と率は表②-1のとおり

である。

次に、医療保険を利用していない方は、65歳以上75歳未満の方の約8割が被保険者である国民健康保険の実績は、表②-2のとおりで、75歳以上の方は、表②-3のとおりである。

③町内介護施設直近の待機者状況は表③-1のとおりである。居宅介護の現状は、平成22年3月末現在の65歳以上の方は表③-2のとおり、主な介護サービスの利用状況は表③-3のとおりである。

表①	対象者	受診率
胃がん検診	773	25.2%
肺がん検診	853	27.8%
大腸がん検診	851	27.8%
特定検診	911	30.1%
後期高齢者検診	151	17.2%

表②-1	被保険者数	未利用者	率
平成19年	6431	5662	88.0%
平成20年	6599	5775	87.5%
平成21年	6756	5875	87.0%

表②-2	未利用者	率	表②-3	未利用者	率
平成19年	115	4.1%	平成19年	53	2.0%
平成20年	119	4.4%	平成20年	63	2.3%
平成21年	131	4.8%	平成21年	65	2.2%

表③-1	特養札内寮	老健あかしや
在宅	29	8
施設入所中	39	2
入院中	30	23
待機者合計	98	33

表③-2	人数	率
65歳以上の人数	6756	
上記の内要介護認定者	1125	16.65%
上記の内居宅介護サービス利用者	603	

表③-3	人数	率
訪問介護	261	23.2%
通所介護	293	26.0%
通所リハビリ	130	11.6%
福祉用具貸与	242	21.5%